

“大野もっこりの郷”の 農地集積とまちづくり



大野もっこりの郷 事務局長 泉川 道浩

西和賀町について

人口 5,134人
(R2年国勢調査)
面積 590.74km²
人口密度 8.69人/km²
高齢化率 51.1%

大野集落

旧沢内村の南端、旧湯田町境

降雪量平均 10.57m
最大積雪平均 1.95m
過去の最大積雪(S49)
3.68m



どこにもない四季と湯の里

西和賀町



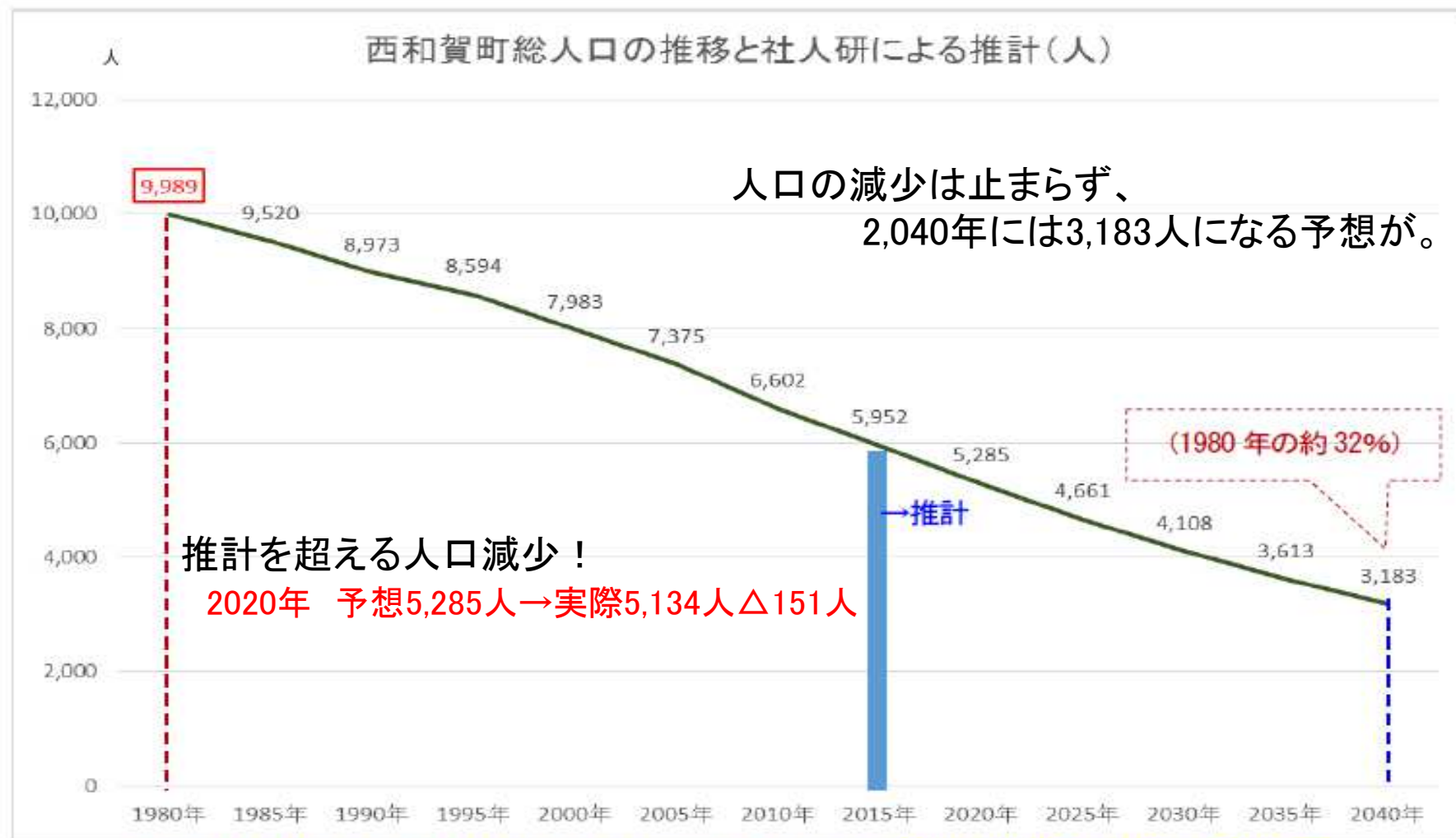


図 総人口の推移と社人研による推計 (資料：国勢調査、2015 年以降社人研による推計値)

表 総人口の推移と社人研による推計 (資料：国勢調査、2015 年以降社人研による推計値、単位：人)

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	平成52年
	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総数	9,989	9,520	8,973	8,594	7,983	7,375	6,602	5,952	5,285	4,661	4,108	3,613	3,183

西和賀町の農業

○山間農業地域で水田型（県内唯一）

- ・米への依存度が県内最高（昭和40年代）で冷害の常襲地域
- ・西和賀型の複合経営（米＋畜産＋花き）の確立（昭和60年代～）
- ・高齢化により農業の低成長時代（平成6年農業算出額が最高）
- ・大豆、ソバへの転換、農地集積による規模拡大（平成20年代～）
- ・水田活用交付金の要件変更による集落存続の危機（令和5年～）

○西和賀農業の主要品目

- ・米（あきたこまち、銀河のしずく）
- ・りんどう（独自品種開発、八幡平市に次ぐ生産額）
- ・わらび（系統選抜、転作奨励）
- ・そば（集落営農、土地利用型経営体）

大野集落の人口と世帯

区 分	平成5年	平成15年	平成20年	平成25年	平成30年	令和5年
人 口	217	194	172	157	137	124
15才未満	28	20	12	10	11	12
15～64才	139	100	82	72	58	54
65才以上	50	74	78	75	68	58
高齢化率	23.0	38.1	45.3	47.8	49.6	47.6
世帯数	54	54	51	48	42	43
うち高齢者世帯	6	18	18	17	12	15
うち一人暮らし	3	8	6	5	5	10
資料：独自推計（1月1日現在）						

まちづくり活動の背景

○地域の将来の不安

- ・住民の高齢化と農地の荒廃（農地の借手不足）
- ・集落総会で危機感を共有（平成16年頃）

（10年前と人口、世帯構成等のデータを比較し10年後を予測）

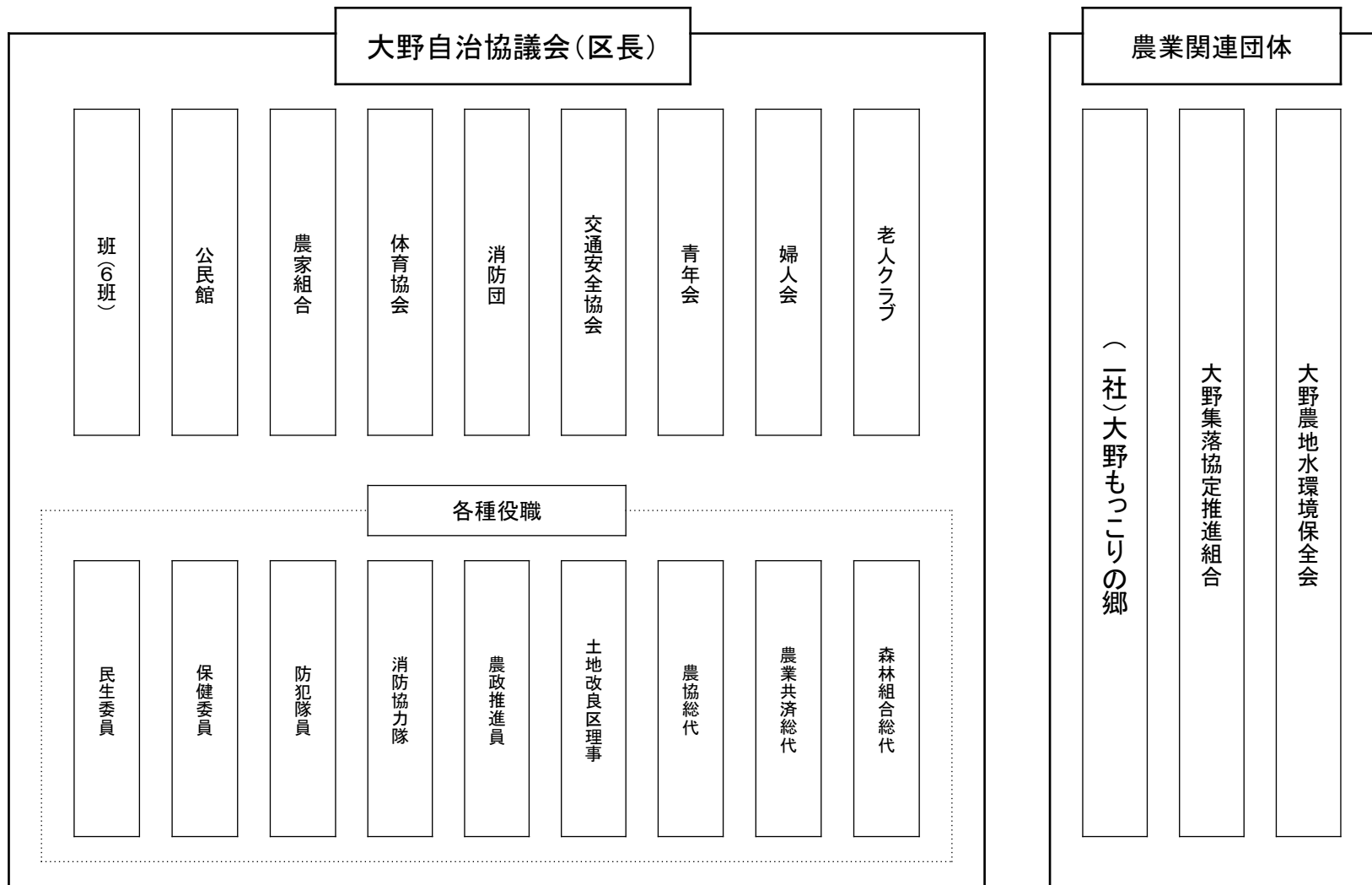
○中山間地域等直接支払交付金（平成12年～）

- ・水田 急傾斜21,000円/10a 緩傾斜8,000円/10a
- ・大野集落協定 共同活動分 $8,000円 \times 36ha \times 1/2 = 1,440,000円$
- ・ふれあい農園、研修視察、拠点施設整備

○若い世代？の台頭

- ・自治会役員（60代後半から70代中心）
- ・中山間集落協定役員（代表40代、役員40～50代前半）
- ・意思決定の柔軟さ！

大野集落のまちづくりの体制





役割分担

- 大野自治会
(地域を守る)

- ・町からの委託業務
- ・集会施設の維持
- ・消防防災
- ・新年会、敬老会等の開催
- ・共有林等財産の管理

- 大野もっこりの郷
(地域から攻める)

- ・農地の有効活用
- ・新商品の開発
- ・様々な交流活動
- ・空き家の活用
- ・農村環境の保全

大野集落の主な年間行事

月	行 事
1月	新年交賀会 & 年祝いの会
2月	雪あかり どんと祭 & しめ縄づくり
3月	集落総会
4月	春の水路・農道整備 農業関係総会
5月	杉の下ジャズコンサート
6月	さなぶり
7月	研修視察
8月	盆踊り大会 ナイスワークキャンプ
9月	稲荷祭り 敬老会
10月	秋の水路点検補修
11月	収穫祭、秋田種苗交換会研修
12月	忘年会

雪あかり&しめ縄づくり(2月)



草刈り！（6月～10月、毎週土曜日早朝5:00～）



先進地研修(7月)

- ・宮守川上流生産組合(H15)
- ・江刺 上小田代営農組合(H17)
- ・川井村 嵯峨農園「雑穀栽培」(H19)
- ・山形県金山町杉沢集落 栗田和則さん「暮らし工房」(H20)
- ・一関市大東町下内野集落「カジカの里、モツ会館」(H21)
- ・秋田県五城目町「杉沢集落」(H23)
- ・住田町「上有住集落」(H24)
- ・二戸市浄法寺町「浄門の里協議会」(H25)
- ・秋田県大仙市「余目地区協議会」(H26)
- ・江刺区梁川「羊飼養の会」(R1)
- ・山形県尾花沢市「清流と山菜の里ほその村」(R4)

収穫祭(11月)



大野地区の農地集積への取組み

○集落営農組合設立（平成21年）

- ・急逝者の農地の耕作放棄地化を防ぐため、急遽クボタのプロジェクトを活用し大豆栽培を実施。
- ・大豆栽培のための事業実施主体として集落営農組合を設立。
- ・役員は中山間集落協定を横滑り。
- ・250kg/10aの収穫。

○集積の背景と組合の運営

- ・集落の農地は基盤整備が未実施の10a区画。
- ・集落を維持するために農地を含めた景観が重要。
- ・機械は保持せずに作業は委託。
- ・中山間直払、多面的機能支払を有効活用し採算を確保。

大豆栽培講習会(クボタeプロジェクト)



○H21年作付面積
大 豆 0.45ha
そ ば 0.20ha

○R3年作付面積
大 豆 9ha
そ ば 15ha
水 稻 4ha
ワラビ 0.1ha
その他 1.9ha



集落営農組合の法人化

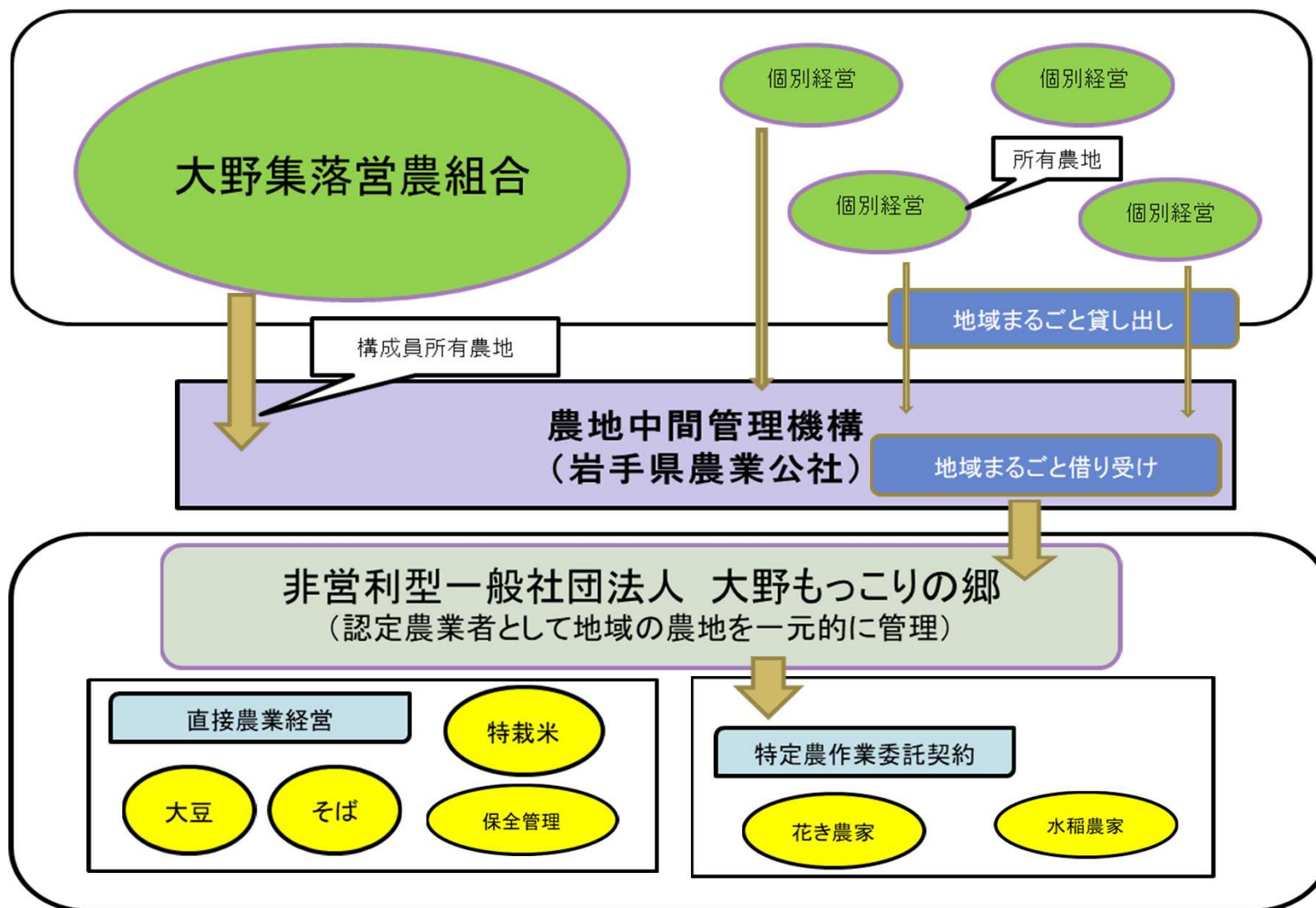
○法人化の必要性

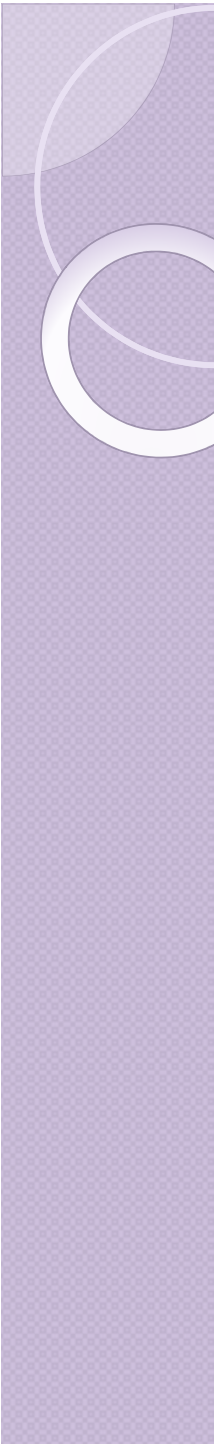
- ・経営面積(収入)の増加
- ・昭和一桁世代のリタイア
- ・人材、労働力の確保
- ・任意組合の限界

○地域まるっと中間管理方式との出会い

- ・季刊地域「地域まるっと中間管理方式と自給家族」(2020春号)
- ・可知祐一郎氏(魅力ある地域づくり研究所代表)
- ・機構集積協力金(農地中間管理事業)

農地集積（まるっと中間管理方式）





法人化のスケジュール

- ・まるっと中間管理方式の役員への提案(2年8月)
- ・法人化方式の学習会(講師:中山間地域フォーラム、12月15日)
- ・関係機関との協議、役割分担(令和3年1月～2月)
- ・集落総会での合意形成(3月20日)
- ・先進地視察(紫波町漆館集落の取組み、6月17日)
- ・研修会(講師:可知祐一郎氏 7月27日)
- ・法人化準備会(7月27日)
- ・設立発起人会(8月26日)
- ・法人設立(9月)
- ・農業経営改善計画認定(10月1日)
- ・農地集積(7月～9月。10月、11月の農業委員会へ提案)

一般社団法人 大野もっこりの郷

- ・設立 令和3年9月

- ・目的

→将来に渡り農業集落として持続するため、地域内の農地を活用し、農産加工・交流・景観保持等を行う。

- ・事業

- 農地の借受と農地の管理、農業経営、農作業委託

- 農産加工

- 都市農村交流事業

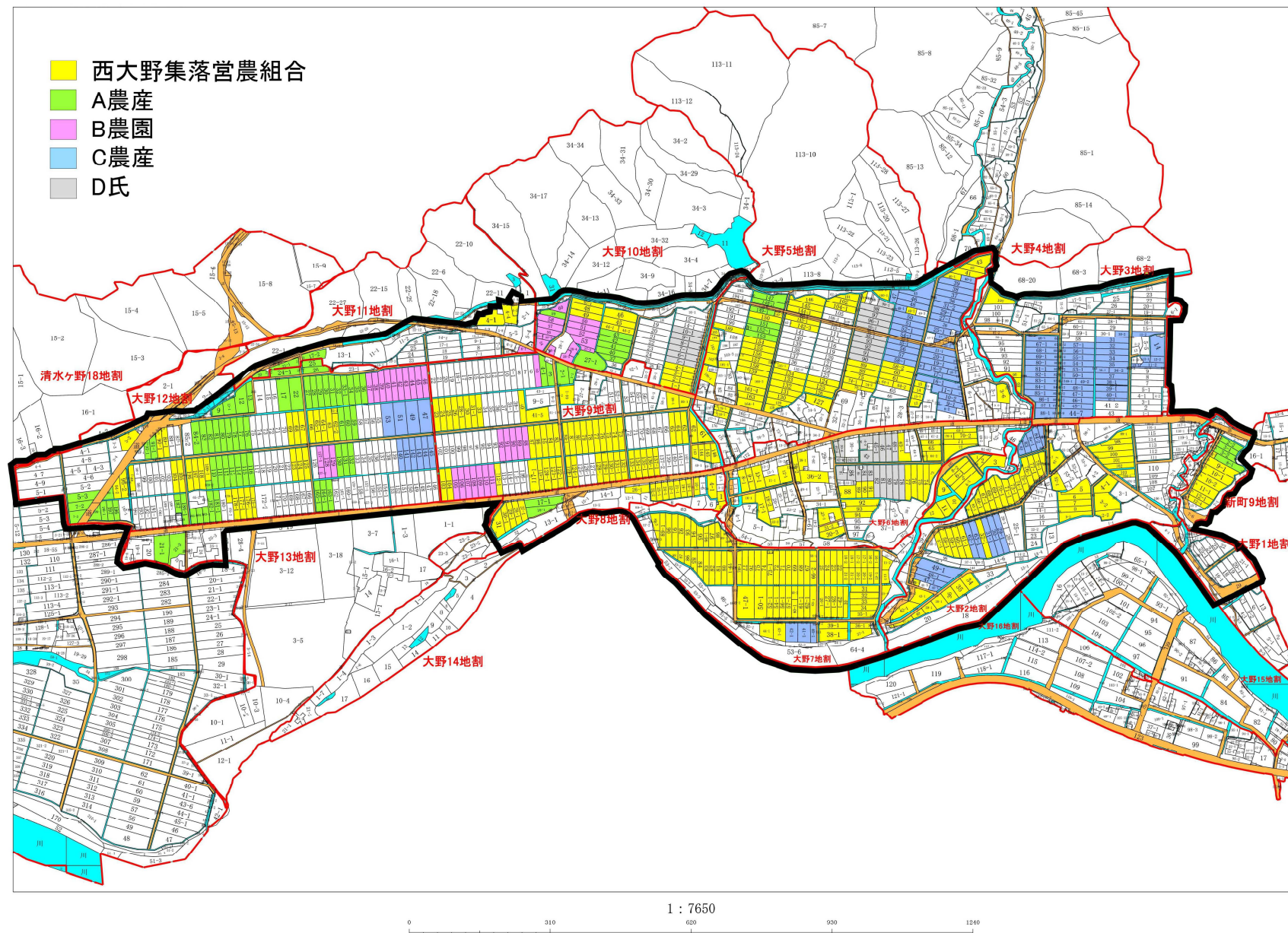
- 中山間地域直接支払事業、多面的機能支払事業

- 地域づくり事業

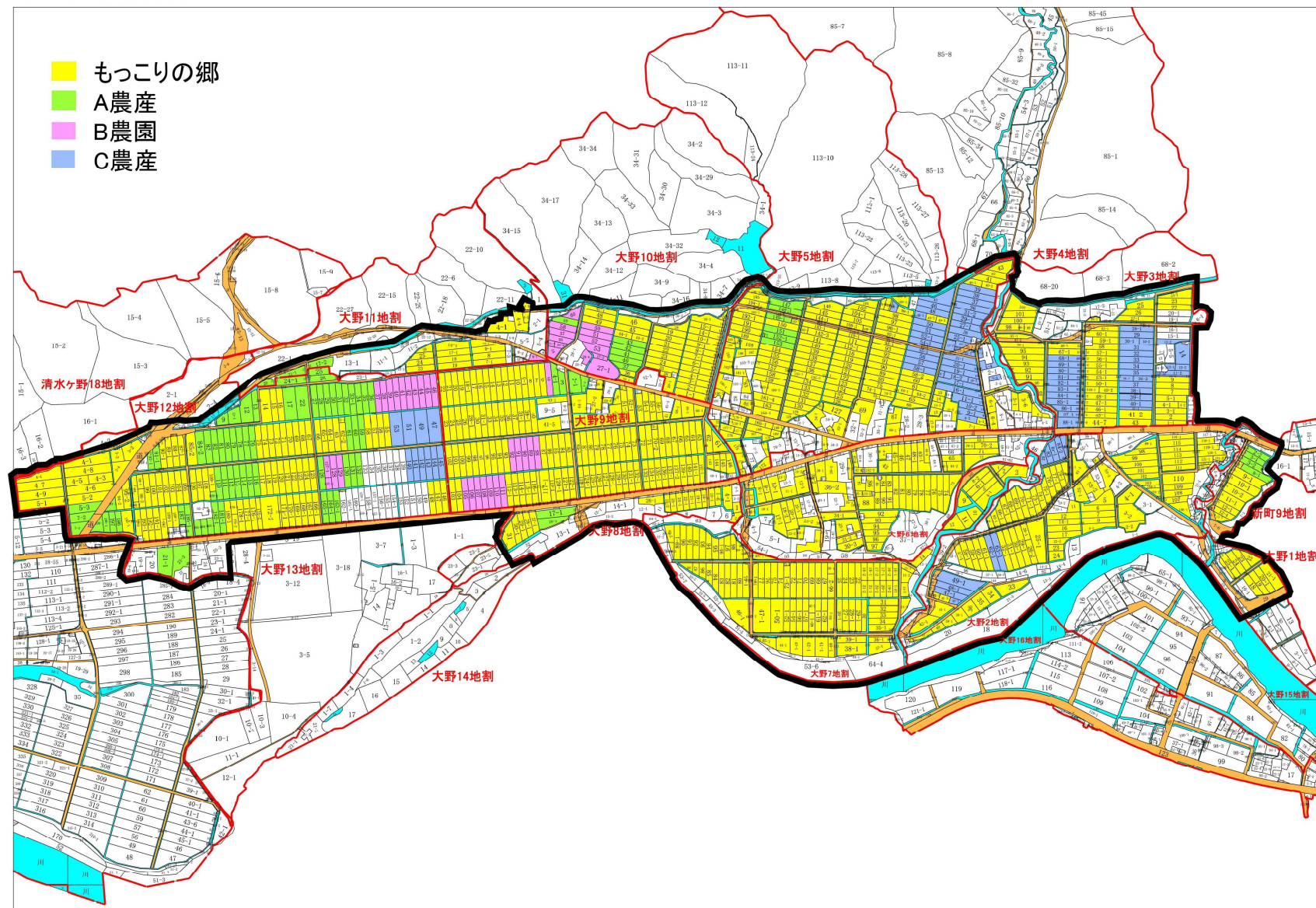
農地集積前後の比較

単位：ha		
担い手名	集積前	集積後
もっこりの郷	31.2	62.9
A 農産	8.3	8.3
B 農園	3.6	3.6
C 農産	9.6	9.6
D 氏	2.9	
農地総面積	88.2	88.2
担い手への集積面積	55.6	84.3
担い手への集積率	63.0	95.6

西大野 — もっこりの郷 集積図(集積前)



西大野 — もっこりの郷 集積図(集積後)



活動のための経費

○地域集積協力金（令和3年度）

・集積タイプ

当年度の貸付面積の1割以上が担い手へ集積されること。

農地バンクの活用率により最大 28千円/10a

・集約化タイプ

地域の農地面積に占める担い手の団地面積の割合が20ポイント以上増加すること。

農地バンクの活用率（70%以上） 10千円/10a

もっこりの郷への交付額 約24,000千円

使途 人件費、事務所経費、トラクター、2トントラック

大野もっこりの郷の年度別経営面積

区 分	H22	H24	H26	H28	H30	R2	R4	R5	R6
水 稲	0.0	0.8	2.1	0.7	0.9	1.2	1.5	2.0	2.0
W C S	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.3	10.2	12.5
ソ バ	5.3	4.2	3.6	4.1	10.3	11.6	15.3	16.7	16.8
大 豆	2.2	3.7	6.3	13.7	11.2	12.0	4.9	4.8	3.8
山 菜	0.1	1.2	1.0	1.1	0.8	0.4	0.4	0.5	0.7
牧 草	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	1.8	1.9
自 己 保 全	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	2.3	2.8	2.4	2.8
そ の 他	0.4	0.3	0.1	0.1	0.3	0.6	0.8	1.0	2.0
合 計	8.0	11.4	13.1	19.7	23.5	28.1	37.2	39.4	42.5

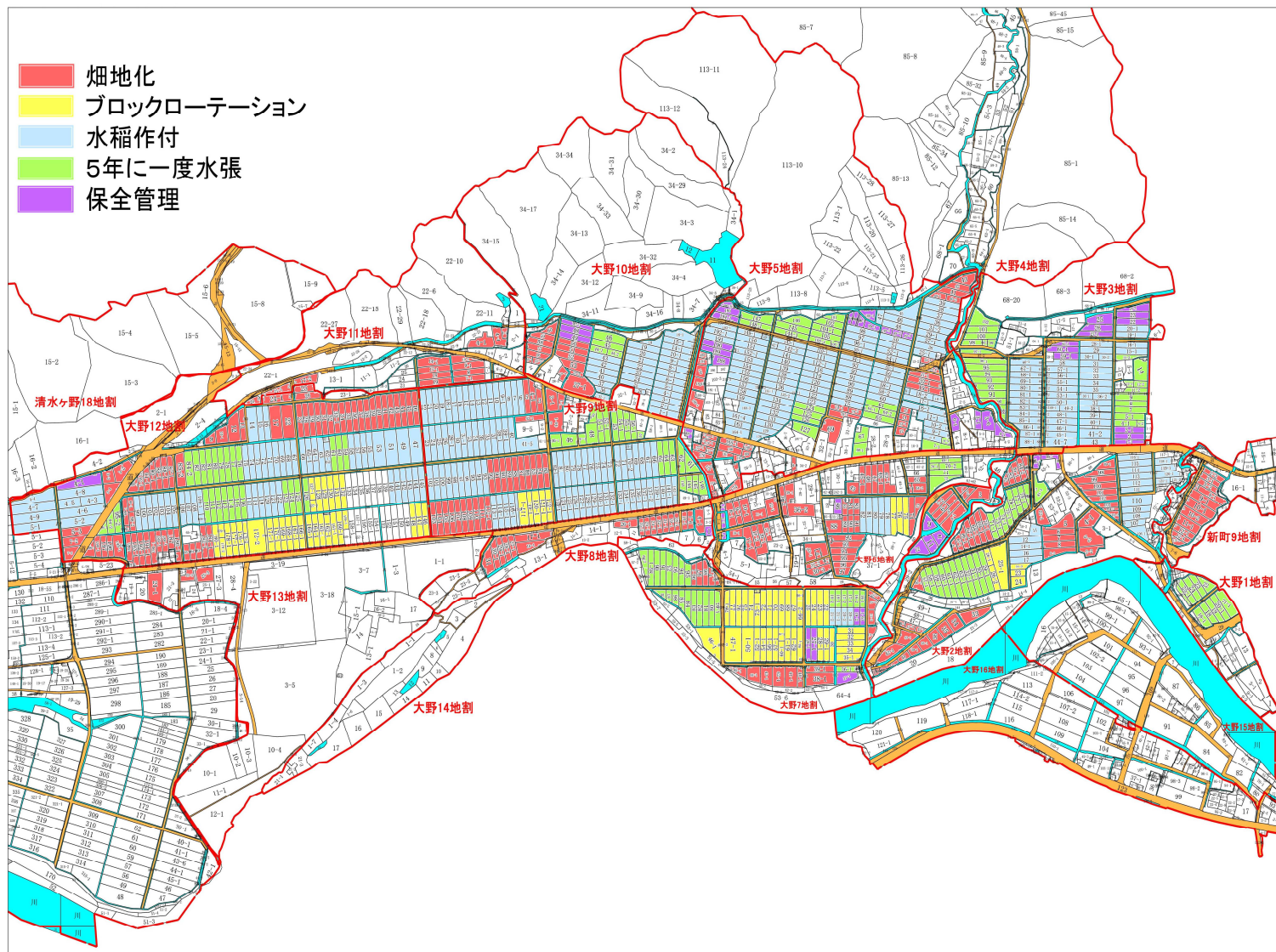
(単位：ha)

大野農地利用計画

区 分	水稻作付	ブロック ローテーション	水 張 5 年に一度	畑地化	保全管理	合 計
面 積	33.0	8.2	13.1	23.2	4.3	81.8
割 合	40.3	10.0	16.0	28.4	5.3	100.0
筆 数	358	86	160	294	54	952

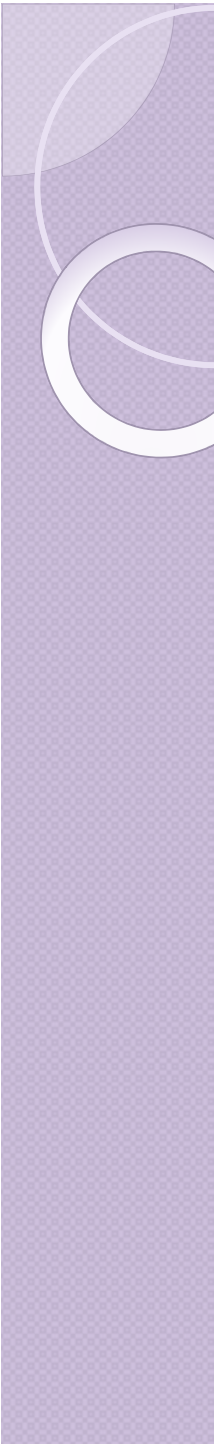
(単位：ha、%、筆)

大野 農地利用計画図



1 : 7650

0 310 620 930 1240



まちづくりのための事業

- ①拠点施設等の整備
- ②関係人口の構築(交流)
- ③特産品の開発
- ④高齢者等の支援

①拠点施設(もっこり会館)整備



拠点施設の改修
作業も地区民の
手により実施

昭和20年代から
使用した旧公民館

生き物



②関係人口の構築

○陸前高田市からの震災被害者との交流

- ・震災で西和賀町の旅館に避難した方を春の田植えと秋の収穫に招待、その後も毎年招待し交流を継続。

○国際ボランティアグループ『NICE』との交流

- ・ワークキャンプ(夏季10日間、平成25年～)
- ・週末キャンプ(2泊3日、雪明り等の際の交流)

○NTT東日本グループの研修受入

- ・雪明りと高齢者除雪ボランティア(平成28年～、30名程度)

陸前高田市被災者との交流会



NICEと地元住民との交流



NTT東日本グループ研修



交流ツール



食



③特産品の開発



エゴマの収穫
羊毛のごみ取り
藍の選別

南部かしわ銀雪の飼育



西和賀の静かで涼しい環境
のなか
清らかでミネラル豊富な雪解
けの伏流水と
西和賀産の穀物餌で育った
「南部かしわ 銀雪」
まさにユキノチカラが育てた
ブランド地鶏です。



④高齢者等の支援等

○買物支援

月平均3回程度町中心地のスーパーの買い物に同行。

○除雪

基本的に結により近所の親戚が除雪を行っており、集落での支援はないが、スノーバスターズの活動として月に1回老人世帯の雪かきを中高生含め実施。

○空き家対策

空き家対策委員会を設置し、地区内の空き家の把握、所有者との連絡調整、移住希望者への斡旋を実施。

- ・移住者2件成立
- ・多雪の際には空き家除雪にも対応

まちづくり活動のための経費

○中山間地域直接支払交付金(第5期分)

- ・対象面積 469,596m²
- ・緩傾斜分 $8,000\text{円}/10\text{a}=3,756,768\text{円}$
共同活動分 $3,756,768\text{円} \times 2/3=2,504,512\text{円}$ ①
- ・集落機能強化加算 $3,000/10\text{a}=1,408,788\text{円}$ ②
- ・生産性向上加算 $2,000/10\text{a}=939,192\text{円}$ ③
- ・合計 ①+②+③=4,852,492円

○多面的機能支払交付金(令和3年度)

- ・対象面積 803,100m²
- ・農地維持、資源向上(共同、加算含) 4,095,810円
- ・資源向上(長寿命化) 2,208,525円

○大野自治会と(一社)もっこの郷の活動を住民に周知
○原則月に2回(1日、15日)発行

大野もっこの郷通信

令和5年 7月18日(火)
 (2023年) 今個第1年度第6号

大野自治協会の(たま・朝川町)発行

作付に面積が最大
ソバ 15ヘクタール

急ピッチで播種

稲(主食米・飼料米)と大豆に続き、7月に入ってソバの播種が急ピッチで行われました。

大野もっこの郷の農作物作付け面積としては最大の量となる約15ヘクタールの畑で、高橋我々ん機農

全戸に播種までのソバの準備

のトラクターがフル稼働

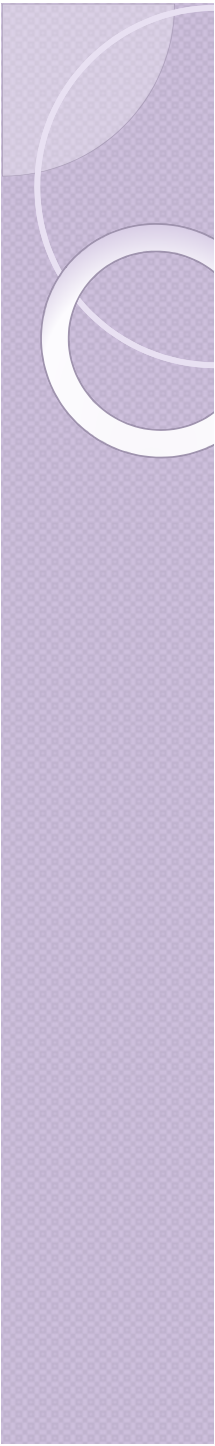
しました。品種は宮城県産ソバの作実とし、新田産農

夏になつて大野の播種を済ませた後、フレールモアと呼ばれる草刈り機を装着して畑に運びこる雑草を粉砕、さらに耕起してから播種を心配します。

大雨を心配しながら9月下旬の収穫を行います。

フレールモアで雑草を粉砕

[illegible][illegible]



“大野集落の合言葉”

- 自分たちが楽しむ！
- まずやってみる！
- 他人の意見を否定しない！
- 来るものこばまず！
- 飲み会は大切！
- おかえりなさい！

農山村政策の正念場！（令和5～6年）

○地域計画（令和6年度までに）

農地1筆ごとの目標地図の作成を含め計画策定

○中山間地域等直接支払交付金（令和7年度～第6期対策）

令和6年までに集落戦略の策定が必須

○多面的機能支払交付金（令和6年度より新対策）

地域共同で行う農地や農業用施設の保全計画

→令和6年度から新たな5年計画

○水田活用直接支払交付金（令和8年度までに水張必要）

5年水張問題と畑地化問題

自治会との連携が必須！

飲み会（ひらめきを求め！）



ご清聴ありがとうございました！